



鶴翔 同窓会だより

庄内中学校 鶴岡中学校
鶴岡第一高等学校 鶴岡高等学校
鶴岡南高等学校

第 56 号

発行 鶴翔同窓会

〒997-0037 山形県鶴岡市若葉町26-31
山形県立鶴岡南高等学校内
電話(0235)22-0061

印刷 鶴岡印刷株式会社

2015年

平成27年11月1日発行



去る7月1日に、母校創立127周年を迎え、鶴翔同窓会の総会と記念祝賀会が、グランドエル・サンで盛大に行われました。

祝賀会では、今回初参加の北海道支部鳴鶴会会長谷内昭治氏(65回)をはじめ、各地区の代表者の皆様方をお迎えして、和気あいあい楽しく過ごすことができました。

小池央氏を委員長とする82回・92回・102回の実行委員の皆さんに感謝します。

(写真は鏡開きと校歌)



同窓会会長挨拶



第七代会長

齋藤 正志

(昭和44年・76回)

会長就任2年目を迎えました。

今年度も7月1日には創立127周年の記念式典、記念講演が厳粛に執り行われました。夕方から開催されました本会総会では、事業計画等が原案のとおり承認され、また、石黒前会長の顧問就任も了承されました。その後開催されました祝賀会は、遠路はるばる各支部の代表者の方々のご出席をいただき、和気あいあい楽しい一夜を過ごすことができました。

昨年度は維持会費を2口(千円/口)から3口以上の納入をお願いいたしました。増口による納入件数の減少を懸念しましたが、最小限(1・5%)の減少に留めることができ、会費収入の増により本会の運営も改善されました。これもひとえに皆様のご理解とご協力の賜ものと深く感謝申し上げます。

平成28年6月に予定されています「会員名簿」の発行(改訂)にあたりましては皆様に、賛助広告・賛助金・名簿購入のご協力をよろしくお願いいたします。

昨今、母校の教育環境の充実が目を見張るものがあります。SSHや中高一貫英語教育指定校としての取組み等、教職員の方々の日々のご努力により、

学業のみならず部活動での活躍は誇らしい限りのものがあります。本会も一致団結して、母校を支援して参りたいと思います。
最後に本会並びに母校の発展と皆様のご健勝とご活躍を祈念しまして挨拶いたします。

記念講演要旨

(国研) 産業技術総合研究所

地質調査総合センター



主任研究員
鈴木 祐一郎

(昭和50年・82回)

私は学校の近くの市内泉町で育ち、75年に南高を卒業後千葉大学理学部地学科に入学し、82年に大学院修士課程を卒業後、当時の国家公務員に合格し、つくばにある国立研究所の一つである通産省工業技術院地質調査所へ就職しました。当時の国立研究所は試験採用が一般的でした。00年の行政改革で、工業技術院15研究所が独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)への組織替えで、本年から国立研究開発法人へ移行しました。

地質調査所入所後は、野外調査による5万分の1地質図作成業務に従事する一方、本務である化石燃料資源に関する研究を進めてきました。石油、天然ガス、石炭は最も重要なエネルギー

私のやってきた仕事 『目指せ研究者』

資源ですがそれらの探査ための基礎となる研究に従事していました。初めに主に行なったのは石炭の炭質に関する研究です。内容が難しいので雰囲気だけでも味わってほしいのですが、石炭の表面を鏡の様に磨き、特殊な顕微鏡を用いて観察し、他の化学的分析結果などと合わせた炭質評価のモノグラフの開発などをしていました。日本の石炭は水素分が多いのが特徴だったので、この原因は石炭のできる場所の違いではないかと考え、比較のため大陸である中国と共同研究を行ないました。結果は予想と違い、地質時代の差が炭質への影響が大きいことを明らかにできました。

90年代以降は、石油、天然ガスの根源岩研究へ対象を広げ、石炭起源の石油や天然ガス、非在来型のシェールガスやシェールオイルなどの研究を進めています。未来の天然ガス資源と言われるメタンハイドレートについて、現在庄内沖の最上トラフで調査が進行中です。庄内地方は我が国で数少ない油田地帯ですが、地下に残る回収困難な石油を、微生物を使ってガスへ変換し回収するための基礎的な研究を余目油田で進めています。この研究では、我々の同僚女性研究者(リケジョさん)が活躍しています。

最後に、理工系国立研究所の研究者になるための道についてお話しします。現在国立研究所は、大学に付属する研究所(東京大学地震研究所など)、各省庁直轄の研究所(国土地理院など)および国立研究開発法人(産総研や理化学研究所など)に分かれます。以前は、人材を内部で育成しましたが、今はある程度完成された研究者の採用が主です。採用はテーマ別の公募制をとっており、大学院博士課程卒業生や博士研究員(所謂ポスドク)が主な対象です。研究業績や専門テーマが採用基準で、論文や国際学会での発表は採用での必須条件になっています。理系研究所では、男女比が男子に偏っており、ジェンダーバランスの観点から女性研究者の採用を優先と言われているので、リケジョの方が有利です。

研究者を目指す方は、大学院でしっかり研究について学び、更にポスドクで研究を進めることが研究者への道と言えます。研究所ではリケジョの方は大歓迎です。南高生の皆さん、ぜひ研究者への道を目指してほしいですね。



南高等学校創立127周年記念式典



第三十二代
鶴岡南高校校長
柴田 曜子

早いもので鶴岡南高校の校長に就任して3年目、教員生活最後の年を迎えました。この3年間本校生徒は様々な場面で活躍し、同窓生の皆様にそのご報告ができますことを非常に嬉しく、また誇らしく思っています。

今年も陸上部、水泳部がインタハイに出場した他、アーチェリー部が男子団体で優勝という快挙を成し遂げ、団体競技で全国優勝するのは初めてではないかと思えます。高円宮杯を始め優勝カップやブロンズ像のトロフィーに、全国で団体優勝するという事の重みを感じました。全国高総文祭には科学部の他に、設置外ではありますが将棋で3年の岡部寛大さんが出場し、全国優勝しました。

SSHの取り組みについても、昨年3年目の文科省による中間ヒヤリングで高い評価をいただきました。東北大のAO入試に多数の生徒が合格したのは鶴南ゼミの成果だと思います。自分の考えを自分の言葉できちんと話せる生徒たちが育っています。

通信制の生徒も、陸上、卓球、バドミントンで全国大会に出場、本校の分校となった山添校は、黒川能の学習を通して地域ボラ

ンティアに励んでいます。

今や鶴岡南高校は全日制だけでなく、鶴南グループとしてそれぞれ活躍していることをご報告します。そしてその生徒一人一人が自分の持った力を最大限発揮し、更に伸ばしていけるように教職員一同努めて参りますので、同窓生の皆様には今後ともご支援よろしくお願い致します。

各地の鶴翔同窓会

山形鶴翔同窓会

9月9日(水) 山形グランドホテルにおいて、総会・懇親会を開催しました。当番実行委員は、昭和46・47・48年卒の方々と、佐藤裕司実行委員長(昭46卒)の下、一致協力して運営に当たっていただきました。

昨年度に引き続き若者の参加拡大を図るため、母校卒の大学生に呼びかけたところ、山大学生2名の参加もあり、総勢72名と盛会なものになりました。

特に、平成卒の会員が9名も参加したのは、会の強化発展の観点から大変心強い限りです。

柴田曜子校長のお話では、卒業生の目覚ましい進学を始めとした母校の現状や、全国大会で優勝したアーチェリー部男子団体、同じく優勝した将棋個人戦男子など、特筆する活動状況な

どを伺いました。



齋藤正志同窓会長の来訪は初めてで、来賓挨拶の中で、維持会費収入増のお礼や母校への支援拡大、来年度発行予定の会員名簿について協力依頼などのお話を頂きました。

懇親会は、佐竹規成先輩(昭26卒)の乾杯で始まり、互いに旧交を温め合い、予定された時間があつという間に過ぎたことは言うまでもありません。この模様は山形鶴翔同窓会のHPに動画付きで載せておりますので是非ご覧ください。

なお、今回は役員の改選期に当たり、不肖私が会長に再選されました。重責に身の引き締まる思いですが、同窓会の発展に力を尽くしていく所存でありますので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

会長 池田惇(昭39卒)

北海道支部鳴鶴会

7月25日、ホテル札幌ガーデ

ンパレスに於いて、鶴翔同窓会北海道支部鳴鶴会の年次総会と懇親会が開かれました。

当日は本部より森俊直事務局長にご臨席いただき、また北大生2名を会員に加えて計21名の参加となりました。遠くは岩見沢、苫小牧よりの懐かしい面々に加え、新たに出席された方々も2名いらつしやり、とても盛り上がりました。

森事務局長には、故郷鶴岡や本校の最近の様子をお話いただきました。

中でも、本校生徒たちの部活動の県大会、東北大会での輝かしい成績の数々には、一同我が子の活躍のように心を躍らせて聞き入りました。

運動部では全国大会常連の水泳、陸上、アーチェリーに加え、今年は将棋でも全国大会出場とのこと、また、科学部も総合文化祭出場決定とのこと、本当にオススメです。

伝統の鶴南―鶴工定期戦に話



が及ぶと、さらに一同盛り上がり、野球、サッカー、職員戦サッカーとともに3年連続完勝との報に喜びをともにしました。恒例の校歌斉唱は、今年は30年ぶりに弾いた私のピアノの伴奏付きで歌いました。応援団の指導のもと、何度も練習した懐かしい「あの頃」の記憶を音で思い出していただけなら幸いです。さらに谷内鳴鶴会会長の音頭で「鳳嶺月峰」を歌い、楽しい宴を閉じました。

大森由美(昭59卒)

榊引支部

2月11日建国記念の日に、くしびき温泉ゆー(ユウ)において、齋藤正志同窓会長をお迎えして鶴翔同窓会榊引支部の集いを開催しました。以前は各集落に幹事役を置いて、年会費千円をいただき総会を開いていました。15年程前から総会の形をとらずに、年1回気軽に集まろうと「つどい」の形で開催するようになりしました。今回は10人の参加で嬉しいことに初参加の若い方もいました。

金内勝雄支部長の挨拶に続き、齋藤同窓会長からは同窓会や学校の様子などについてお話をいただきました。続いて榊引支部恒例の研修は、松根地区で地域づくり活動を展開されている「松根塾」塾長の成田勇氏(昭

40卒)より「設立の背景と諸活動」についてお話を伺いました。

その中で成田氏は、地域の文化や歴史が埋もれ、忘れ去られてしまうとの危機感を抱き、平成19年に有志3人で「松根塾」を体験型生涯学習塾として立ち上げたとのこと。松根城、六十里越街道、酸性白土、天狗舞獅子舞、昔の遊び・祭り、農業・その展望の六つの分野を宝物と位置づけ、地区のみんなが関わり主役となれる活動を展開、地域の活性化を実感されたそうです。

4年前からは「婚活支援」も始め、他との交流も積極的に図ることで、若者の地域への思いや自信も大いに深まったとのこと。少子高齢化が進み地域に元気がなくなってきた中、大きな論をいただきました。引き続きの懇談会では、松根塾の話に加え、母校の懐かしい話や近況の情報交換など、大変楽しい時間を過ごしました。

事務局長 宮崎哲 (昭56卒)

関西鶴翔同窓会

平成27年6月7日、本年度関西鶴翔同窓会の総会が、大阪市中央区西心斎橋の日本料理店「十方」で行われました。

本部副会長の田中芳昭先生、校長の柴田曜子先生を来賓にお迎えし、約40名の会員がご参加、

うち私を含め3人が初参加でした。

戸屋実事務局長から活動報告、また赤井睦会計幹事から昨年度決算と次年度予算案の報告があり、満場一致で承認されました。その後本間隆関西鶴翔同窓会会長と田中先生から挨拶を頂き、ひしめくような記念撮影の後、和やかに懇親会が始まりました。懇親会では、柴田校長から母校の近況についてご報告を頂き、参加者の自己紹介や近況報告があり、会場では野球部支援のカーンパ袋が回る中、それぞれが郷愁と母校愛と懐かしい庄内弁に触れる時間を過ごしました。

最後は庄司親氏(平19卒)の指揮により、校歌「山河の姿」「鳳嶺月峯」を大合唱して総会は無事閉幕、その後は有志で道頓堀から法善寺横丁、水掛不動を散策、日本橋の国立文楽劇場などを見学ししばしば大阪の古きよき文化を堪能しました。

鈴木興治 (平2卒)



新潟支部

支部総会は8月22日に、母校から柴田曜子校長、同窓会から滝川義朗副会長のご臨席をいただき、14名の参加で開催されました。はじめに大川賢一支部長(昭33卒)から挨拶があり、その中で支部役員の交代が提案されました。新支部長には長谷川俊彦氏(昭41卒)が承認され、また支部長と共に会を支えてきた寒河江久紀事務局長(昭33卒)も大滝一(昭50卒)に代わることとなりました。11年と長きにわたる両氏のご苦勞に感謝したいと思います。

会では滝川副会長の同窓会の近況報告と乾杯に始まり、さらに柴田校長より母校の現況につき、スライドを用いての報告がありました。アーチェリー部の高校総体団体優勝など嬉しい話がたくさん聞かれました。

今年からの新企画である「鶴翔同窓会新潟支部 人物列伝」では、新潟県副知事を務められ、現在は新潟青陵大学理事長の関昭一先生を紹介しました。鶴岡中学時代の思い出などが、短歌も交えて紹介され、和やかな会となりました。

新潟支部では、若い方に同窓会に関心を持っていただくため、新潟の学校に進学された学生さんの歓迎会を昨年に行つてお

ります。今年の第2回歓迎会は、6月27日の土曜に行われました。柴田校長にもお越しいただき、新入生2名、2年生6名とOB5名の総勢14名の出席で盛会でした。今後も本部のご協力をいただき、支部総会と歓迎会の二本立てで新潟支部を盛り上げていきたいと考えております。

大滝一 (昭50卒)



東京鶴翔同窓会

今回は本当に盛り上がりました。毎年会の半ばに歌などのイベントを実施していたのですが今回は「だから飲む」、つまり中断なく飲める会にしようというイベントは無くしました。その代り、実行委員の皆さんに天神祭りの化け物に化けて頂いたのがイベントです。化け物は基本男性ですが女性も化けて、会ではバケジョ、バケダンと命名。

さてさて午後1時半開場です。中には化け物が待っています。皆さん「お、化け物がいる!」



とまず一声。従来は乾杯の挨拶までお酒は飲めないのですが、今回は開場したらウエルカムドリンクです。お酒を紐でつるしたバケジョ、バケダン

ンがお酌、鶴岡同様に顔を隠して喋らないのですが、手元には「のんでくなへ」などの会話カードを持ってサービスします。必殺の「ちっちゃえ声で話しますの」カードもあります。バケジョ、バケダンで始めをぐつと盛り上げそのまま後半へ。お開きの後はそのまま二次会へ。化け物に押されて言い忘れていましたが、今回のテーマは「われらTOKYO海坂藩」。海坂藩は言わずもがな藤沢周平先生の小説に出てくる東北の小藩。そこは鶴岡の情景で描かれています。表のテーマは「われらTOKYO海坂藩」、裏のテーマが「バケジョ、バケダンだらだら飲む」と言ったところです。実行委員長 石川透 (昭55卒)

酒田支部

5年ぶりに鶴翔同窓会酒田支部総会が開催されました。これ

まで「どうしたんだらう」、「今年は集まれる人だけでも集まろう」ということで急きょ平成27年2月15日に酒田セントラルホテルで開催されました。幸い本部の方でも滝川義朗副会長と柴田曜子校長よりご出席いただき、合わせて24名の参加を得て盛大に開催できました。

滝川副会長からは鶴翔同窓会の現状を、柴田校長からは鶴南高生のこれまでにない活躍ぶりをお聞きしました。

総会では新役員が選出されました。

話題提供は元(株)むらやま仙台営業所長を務めた齋藤衛氏の「物作りと営業」というお話でした。心を込めて作った製品を販売する営業の信念と朝礼時に歌った歌も披露してくれました。

その後は懇親会です。名和桂子先生指揮の下、校歌を斉唱して開始、初めて参加の方も3名程おりました。宴たけなわの頃は飛び入りで幹事長のマジック



もありで、賑やかにアツという間に時間が経過、元鶴南応援団副団長の齋藤衛氏の指揮で、応援歌を元氣よく歌いお開きとしました。 杉原丈夫(昭39卒)

羽黒支部

平成27年度鶴翔同窓会羽黒支部総会が、お山開きを間近に控え清楚な佇まいの手向宿坊街、桜小路の「大進坊」において6月24日に開催されました。

来賓に齋藤正志同窓会会長、柴田曜子南高校長をお迎えし、早坂眞一羽黒支部長以下17名が参加しての総会となりました。

齋藤会長のご祝辞では7代目会長に就任されてから、会費の見直しや一三〇周年に向けた積立、5年に一度の会員名簿の改訂など、節目でのご就任に頭が下がりました。

柴田校長の母校の近況報告では、野球部が県大会ベスト8で全校応援したこと。国公立への進学率だけでなく難関校への多数合格、SSHや先進的授業など、自主・観智・剛健に「挑戦」を加え、県内の圧倒的2番手になるとのお話に圧倒されました。

懇親会では、今年も(株)アイデアの北風加奈さんに花を添えていただき、食文化創造都市鶴岡を代表しミラノ万博に出展される出羽三山の精進料理の中でも折り紙つきの「大進坊の精進

料理」と美味しいお酒を堪能しながら、懐かしい面々と年代を超えて大いに盛り上がりました。大進坊未体験の同窓生の皆さん、是非一度参加してみませんか。☆☆☆☆☆です。

佐藤潤到(昭53卒)



仙台鶴翔同窓会

当仙台鶴翔同窓会は、去る8月29日(土)午後3時より、一番町「シエルブルー」に於いて第37回定期総会を開催し、同窓会本部から國井英夫副会長、母校から教頭坂尾聡先生のご両人をお招きして、33名の出席会員と共に盛況に挙行できました事に感謝いたします。

総会の部は、伊藤賢司氏(昭40卒)の司会で、協議事項の平成26年度活動報告並びに会計決算報告、平成27年度活動計画案並びに予算案。それぞれ阿部事務局長より報告提案あり、全て満場承認可決されました。

議事終了後に行われたミニ講



演は、阿部清当会事務局長が「私見、全日本代表サッカーチーム・ハリルホジッチ新監督の横顔とチーム戦術」と題し、本人が高校・社会人チーム監督を務めた経験者の目から感じた、新監督の人柄と3月就任から現時点までの試合結果から見るチーム戦術等について分析結果を要約して解説。特に、W杯アジア二次予選中での講演とあつて皆さんには、今後の観戦に参考になったと思います。

懇親会では、小関憲二氏(昭40卒)が司会を務め、坂尾教頭先生の乾杯音頭によって開宴となり、一同卓を囲んで料理に舌鼓を打ち、お酒で喉を潤しながら時が経つのも忘れて、古里や学校時代、恩師、級友などの思い出話に花を咲かせながら、絆を深めておりました。

最後に万歳の発声をもって閉会し、再開を誓い合つて解散となりました。 阿部清(昭32卒)



通友会総会

第54回鶴岡南高等学校通信制総会を10月3日(土)羽黒地区当番で「グランドエルサン」で開催しました。学校から柴田校長、通信の遠藤教頭、恩師3名出席をいただき、会員23名で開会、丸山光平(通昭43卒)、早坂一夫の進行で校長挨拶、教頭より通信制の現況報告、続いて議事に入り平成26年度経過報告、決算報告、27年度の行事、予算案等全会一致で承認されました。

講演は出羽三山神社宮司宮野直生様より「天有別当ゆかりの徳川家康公と天海僧正」と題して徳川家康公没後四百年祭の羽黒山東照社御神像開扉等、お話を頂きました。その後、菅沢戸村両先生の庄内おばこを始め三曲の踊りを見せて頂き花を添えました。伊與田さんの乾杯で懇親会に入り歓談し、来年度は藤島地区担で再会を誓い散会しました。 中條芳男(通昭49卒)

お久しぶりです!! 各地で活躍の会員から

今号よりの新企画第一弾!さまざま年代の会員の声を反映し多くの読者に楽しんでもらえる紙面作りをめざして、会員個人の近況報告をお寄せいただきました。故郷を離れ各地に根を張る会員のご活躍。皆様からのお便りをお待ちしています。



北海道支部
(鳴鶴会)
小枝 劔持
(昭和28卒)

人形と共に

私は中学・高校時代、吉統豊明先生にモダンダンスを習い、結婚して札幌に来てからも、モダンダンスやモダンバレエの舞台に立っていました。

しかし、夫の転勤で静内に移り住んでからは、一人で出来る事は何かと考え、人形制作を始めました。できた人形を飾っていると、窓越しに見たOL達が「教えて!」と来るようになり、教室を開くほどになりました。

再び夫の転勤で、東京在住となった時、人形展の開催があったので、夫の反対を押し切って「夕鶴」(空に舞い上がるようにする瞬間をとらえた作品)を出品しました。それが思い掛けず特賞となり、翌年出品した「雪原

の幻想」(雪女が雪原で舞っている作品)も特賞になりました。学生時代に習った舞踊が人形の動きに生きたのだと思います。

その作品が、映画監督の小平康氏の目にとまり、人形は主役の松原智恵子の作品として映画に出演することになったのです。夫の東京転勤が無かったらこんな幸運も無かっただろうと感謝したところです。



札幌に帰り、人形展を開催すると、当時は珍しかったのか、ソ連領事館々長もお見えになり、パーティに招かれ、モスクワ展やレニングラード展のきつかけになりました。その後も、ジャパンウィークに参加したり米国の人形誌にグラビア4ページで「人形大使」として紹介されたりと幸運が続きました。海外展はソ連、米国、中国、欧州各国と26回経験しました。

札幌で全国初の公募「人形道展」を立ち上げ30年余り。多くの人形作家が育ちましたが、次の会長の引き受け手がなく、昨年で同展を終了しました。

今、鶴岡出身で明治時代に北海道で活躍し、アイヌの皆さんから「あつし判官」と称され慕われた松本十郎氏の人形を依頼されて作って居ります。



仙台鶴翔
同窓会
伊藤 賢司
(昭和40卒)

高校を卒業後50年になります。高校三年時に病気で休学、何とか卒業できました。東北大学医学部に入學以来、仙台で暮らしております。

外科医になり手術に明け暮れる毎日でしたが、約20年前に開業しました。今は内科の患者さんが多く、専門は?と聞かれる

と返事に困ります。実はこの春に仙台北外科医会会長に就任しました。

仙台には約10名の鶴南出身の医師がおります。医師会行事でお会いできる方もおりますが、同窓会でないとお会いできない方もおります。

振り返ってみますと、昭和56年に鶴翔同窓会仙台支部ができました。同窓会には県外の病院に赴任中を除き、ほぼ毎回出席するようにしております。

開業時には銀行勤務の先輩から格別のご支援をいただきました。現在は阿部純二会長、阿部清事務局長のもとで監事を担当しております。役員で同期の石川俊正君は写真技術に精通し総会の場で記念写真を印刷してくれます。土木工学専門の小関憲一君も役員に加わり、3人が集まると高校時代の話で盛り上がりします。

仙台市医師会の先生方の話では大震災後、以前にも増して鶴岡方面への人気が高まっている様です。「だだちゃ豆」「加茂水族館」はもちろんですが、同窓会員に関係ある「湯野浜の久さんに行ってきた」とか「致道博物館で館長さんにご案内していただきました」などの話を聞くと、うれしくなります。鶴翔同窓会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

師の一言



東京鶴翔
同窓会
齋藤 耕治
(昭和41卒)

勉強に励むと言う事には全くと言ってよいほど無縁だったスポーツ少年の私は、教室での勉強が苦痛だった。そんな夏休み明けの9月、柔道の故佐藤三郎先生(昭和15年東京高等師範学校(現筑波大学)卒。旧制鶴岡中学、鶴岡第一高、鶴岡高校、鶴岡南高在職20年、元山形県立金山高校長、同加茂水産高校校長)から、昼休みに体育教官室へ来るようにと突然呼び出され、恐る恐る教官室へ。

先生は開口一番、部屋中に響き渡る声で「おう来たが、まずそご座れ。セオイナゲヲ オボエルトイイノ ツヨグナルナー」と言われ両肩を揺らして破顔一笑された。尊敬している先生から褒められたのでホッとして心底嬉しかった。私の真の「柔道」修業はここから始まった。毎日放課後2時間。何とか稽古について行くことが出来たが、合宿は辛かった。大学生柔道部員が多数参加し、立ってられない程投げられ、へどを吐く程の猛稽古。今と違って水を飲んでは駄目。尿は真っ赤。進学

した大学の稽古も厳しかったが、しかしサボったことはない。あの日、「ツヨグナルナー」と褒められた師の一言が私の柔道人生を支えてくれた。そのご恩に感謝の他はない。

高校保健体育の教員を経て、現在(公財)講道館で機関誌『柔道』の編集に携わっているが、今後とも師の教えを守り社会への恩返しを考えている。最終ステージは趣味の世界を楽しみたい。来年はリオデジャネイロ五輪大会。その次2020年はいよいよ東京五輪・パラリンピックがやって来る。世界最高のスポーツの美に酔いしれたい。



関西鶴翔
同窓会
斎藤 興哉
(昭和35卒)

今年度の総会は、再度事務局長に復帰した戸屋氏による活動報告等が型通りに行われ、その後、本会の本間会長の挨拶が続きました。ご来賓の田中同窓会副会長は、校長在職時を含め4回目のご参加の由、改めて柴田校長ともども遠い大阪までお出でいただいたことをありがたく思いました。

懇親会では、柴田校長による母校の近況報告があり、部活動での活躍、SSHの指定を受けた母校の有り様に頼もしさを感じ

えました。最後は、校歌と「鳳嶺月峯」を斉唱、エールで締めくくりました。

懇親会の後は、大阪ミナミの散策ということで、法善寺横丁や水かけ不動、国立文楽劇場などを、やや赤くなつたご機嫌の顔で見回りしました。

関西在住の卒業生は、優に200名を超えています。総会の案内に回答をいただくのは70名弱です。今回も総勢34名の出席でしたが、最年長は26年卒、いつもメンバーは大変バラエティに富み、極めて親和的な雰囲気です。それに、総会の会場が各県回り持ちで、それぞれ歴史的に由緒があり、見どころ一杯の観光地を抱えていますので、これは関西で仕事をしている者の役得です。

また、会員の個人的なことですが、54年卒の佐藤俊之氏が現在金春流の能楽師で、その公演を奈良と一緒に観る機会があるのは、本当に素晴らしいことです。

これからも元氣な日々を送り、同窓生との集いを楽しみたいと思います。



新潟支部

大川 賢一
(昭和33卒)

支部長退任にあたり

退任にあたり新潟支部結成以来お世話になった皆様に厚く御礼申し上げます。毎年支部総会に校長先生、同窓会長に遠路お出でいただき、母校の様子をお聞きしながら懇親を深めることができ、大変感謝しています。

この機会に新潟支部の成り立ちを簡単に紹介します。

新潟支部は鶴岡・新潟間に優等列車はなく、今様に言えばSL牽引列車が4時間半で結んでいた昭和30年代、新潟市内で医院を開いていた鶴岡、新大の先輩お二人に貧乏学生が毎年大変ご馳走になり先輩後輩の交流、母校に思いを馳せながら鶴岡弁で故郷を語る会がそのルーツです。以後鶴岡、新潟から一字とつて「鶴新会」と称して続けられていました。

その後同窓会が鶴翔同窓会と改称されたことから、新潟支部結成の機運が高まり、昭和57年新潟支部が結成され、これを機に新潟在住の同窓生に広く参加を呼びかけ今日に至っています。近年は母校から山大、新大への進学者が多い中、色々試みて

いるものの当支部総会への出席者が思うように増えていませんが、この度の支部役員の交代により若返りが図られ、活性化されることを期待しています。

この7月、冷房完備の鶴翔会館で開催の創立記念式典に出席在校生が歌う校歌を聞いていつもながら感激一人のものがありません。ついでに鶴岡の街を散策、安らぎももらえますので、同窓生の皆様も是非式典に出席されることをお勧めします。

新潟の地から母校並びに鶴翔同窓会の益々の発展を祈念し欄筆します。



山形鶴翔
同窓会
齋藤 知行
(昭和37卒)

地域社会福祉活動に携わって

山形市にある南沼原地区社会福祉協議会(以下「地区社協」という)に関わって5年目に入りました。当地区は市南部に位置し、世帯数約七千、人口一万八千人と市内で二番目に大きい地域です。地区社協は、住民の人権が尊重され、誰もが安心して生きがいのある暮らしができる地域づくりをめざして、住民が話し合い、力を合わせて専門機関と協力しながらすすめる

る、住民による住民のための自主的な活動組織と位置付けされています。

もとより福祉活動は地区社協だけでなく、町内会、市社協、民生児童委員、地域包括支援センターなど関係機関、団体と連携を取りながら事業を展開しています。具体的には、「単身高齢者への支援」、「ふれあいのつどい」、「住民座談会」、「子育てサロン」、「いきいきサロン」、「各種会議や研修会」、「広報誌の発行」、「戦没者慰霊祭」、「赤い羽根共同募金」、「歳末たすけあい募金」などです。こうした事業をやっていく上で①役員のなり手がなく、しかも高齢化していること。②地域住民の福祉に関する関心度が低いこと。③福祉活動がどれだけ地域住民にとって役立っているかまいわからないこと。などの問題点があります。

高齢化は進む一方で、2060年には日本の高齢化率が40%にもなると推定され、今後益々、独居老人や認知症患者の増加、介護保険財政の悪化が進むことは明白です。

こうした中であって我々の活動がどこまでやれるのか自信がありませんが、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)を忘れずに努力しなければと考えている今日この頃です。

本校のSSHの取り組みの概要

SSH担当教諭 猪口 俊二（昭63卒・93回）

本校は、平成24年に文部科学省指定のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に採択されました。平成14年に山形県で初めて採択された米沢興譲館高校（平成16年で一旦終了し、本校と同時に平成24年に再び継続新規校として採択）以来、県内では二校目の採択となりました。指定期間は5年間で、その期間内で、申請の際に事前に提出してある研究開発計画に従って、先進的な理数教育、カリキュラム開発に取り組みます。そして、それらの内容は随時、学校のHPや広報誌であるSSH通信等で外部に発信され、各年度毎に研究開発実施報告書を作成し、文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構への提出が義務付けられています。

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）とは？

文部科学省が指定する「SSH」は、未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして、各指定校が、高等学校等において、先進的な理数教育を実施するとともに、高大接続の在り方について大学との共同研究や、国際性を育むための取組の推進。創造性、独創性を高める指導方法、教材等の開発等（教育課程等の改善）に取り組みます。指定期間は5年間で、1校当たり、



新規指定校で総額6千万円、継続新規校総額4千5百万円等と多額の予算が割り当てられます。平成27年現在、経過措置校含めて全国で204校が指定を受け、研究開発に取り組んでいます。また、毎年一回8月には、全国の全てのSSH指定校から生徒が取り組んだ課題研究を持ち寄り、生徒研究発表会が盛大に行われます。参加者の発表内容はいずれも研究レベルが高度な上、発表を全て英語で行ったり、海外の高校からの参加もあり国際色豊かな発表会になっています。

本校のSSH事業の概要

本校のSSH事業概要は、大きく次のA～Eの4つの柱から構成されています。

『科学技術の発展を担う高い志を持った「人財」の育成を目指す研究。』（計画書より抜粋）

本校は、創立127年の歴史と伝統を有し、生徒のほぼ全員が4年制大学進学を志望している。昭和43年に理数科が設置され、積極的に理数教育に取り組んできたが、知識・理解の水準は高いものの、自ら課題を発見し解決する能力等の伸長はまだ不十分であるとの現状分析の下、理数科での先進的な理数教育の実践を普通科にも拡大し、大学・研究機関・地元企業等と連携した探究活動や情報機器を活用した授業改善、台湾の高校を訪問して英語を用いての研究成果の交換や国際交流を含めた他校との連携した取組みを実施することにより、教員の指導力や学校力が向上し、科学技術の発展を担う高い志を持つ

た「人財」を育成できるという仮説のもと、以下の研究を実施する。

A 科学リテラシーの醸成と大学・研究機関等と連携した探究活動の深化発展に向けた研究

最先端の研究機関や大学・先端企業との連携のもと、科学リテラシーを高めるとともに、科学に対する探究心や高い倫理観を身に付けた「人財」を育成する研究。

B ICT機器を効果的に活用した指導方法とコミュニケーション能力向上のための研究開発

情報機器を活用した新しい指導方法の研究開発を通し、情報活用能力、コミュニケーション能力を備えた「人財」を育成する研究。

C 理数才能を伸長させるプログラムと広い視野を持ち国際的に活躍する人財を育成する研究

理数教育の効果を高める授業改善、国際的な交流活動の実践、科学部活動の充実を通し、グローバルな視野で主体的に課題を解決する能力を持つ「人財」を育成する研究。

D キャリア教育、理数体験充実のためのプログラム開発や研究実績を活用し高大接続に繋げる研究

小・中・高の各発達段階にふさわしい理数体験充実や研究成果による高大接続を進めることで、科学技術の発展を担う高い志を持った「人財」を育成する研究。

E SSH事業を推進するための評価・検証方法の研究

SSHの事業を効果的に進めるための評価・検証法の研究とSSH事業を校内で共有するための研究

具体的な取組

①授業について

学校設定科目として「情報A」に代えて、「情

報と防災」に関する内容を盛り込んで「情報・科学リテラシー」を開設。数学、理科に関しても「S

S数学」「SS生物」「SS物理」「SS化学」「SS地学」を開設し、独自のカリキュラムで授業が行われています。また、「総合的な学習の時間」を用いた全校生徒が取り組む探究活動「鶴南ゼミ」が行われています。

「鶴南ゼミ」(基礎) (1年生全生徒対象)

1科目3コマ×7教科(物・化・生・地・英・国・数)で基礎実験や論文作成等の探究活動が行われています。

「鶴南ゼミ」(SS探究・HS探究) (2年生全生徒対象)

個人・指導者が設定したテーマで探究活動を行い、11月に行われる海外進路研修では、各自が研究内容を英語で伝えられるように準備するとともに、台湾の高校生に研究の中間発表を代表生徒が英語で行います。また、2月の校内全体発表会では全員がポスターか口頭で発表を行います。外部の大学や研究機関の指導を頂き高度な研究も行なわれています。

山形大学農学部(生物・環境ゼミ)

(6テーマ・6グループ30名)

慶応義塾大学先端生命科学研究所(TNP)

(1テーマ・1グループ1名)

東北公益文科大学(地学・数学ゼミ)

(1テーマ・1グループ3名)

鶴岡工業高等専門学校(物理・化学ゼミ)

(8テーマ・8グループ23名)

山形県水産試験場(物理・化学ゼミ)

(1テーマ・1グループ2名)

「鶴南ゼミ」(SS発展・HS発展) (3年生全生徒対象)

英語・国語・数学領域での発表活動重視の学習や教科横断的な探究活動が行われています。

②課外活動について

「理数セミナー」(1学年理数科進学予定生徒対象)

宮城大学の協力の下、震災復興に向けた研修と東北大学の協力の下、施設見学や実験・実習が行われ、卒業生との交流等を含めた研修が、3月下旬に2泊3日の日程で行われています。

「理数セミナーⅡ」(2学年理数科生徒対象)

本校卒業生の筑波大学加藤光保教授の多大なるご協力の下「筑波大学」での施設見学、研修が行われています。更に、つくば学園都市での各種施設見学や卒業生との交流が「理数セミナーⅠ」と同じ時期に2泊3日の日程で行われています。

「科学部の活動」(希望生徒対象)

科学部では、山形大学農学部加来伸夫教授の指導の下、発電性細菌の研究が行なわれていて、日本学生科学賞山形県審査では、ここ数年最優秀賞、県知事賞、チノノ賞を受賞。平成25年には中央審査に進み読売理工学院賞を受賞。全国高等学校総合文化祭では、平成24年に文化庁長官賞、平成26年に文化連盟賞を受賞する等目覚ましい活躍をしています。最近では、生物分野以外の分野に取り組む生徒も出てきて今後の活躍が期待されています。

「鶴岡発ノーベル賞級博士育成プロジェクト(TNP)」(希望生徒対象)

平成23年からスタートした取組で、本校からも特別研究生として現在3名が研究に取り組んでいます。

8月に行われる「高校生バイオサミットin鶴岡」では、歴代の研究生が、平成24年に優秀賞、鶴岡市長賞、平成25年に科学技術振興機構賞、慶應義塾賞、鶴岡市長賞、審査員特別賞、平成26年に東北地方の高校生で初めて環境大臣賞を受賞しています。卒業生の多くが、慶應義塾大学に進学し現在も研究に取り組んでいます。

今後のSSH事業について

平成24年に、SSHの指定を受けて3年目の昨年行われた「中間評価」では、「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。」と評価対象校73校中、上から二番目の評価(全26校)を頂きましたが、事業改善の指摘も頂き、現在、当初の計画に改善を加えながらSSH事業を行っています。先日の職員会議で、SSH指定5年終了後も、継続申請を行うことに決めています。SSHの成果は、恐らく5年や10年で目に見ええるものになるかは定かではありませんが、SSH指定以降、鶴岡南高校の生徒の活動には、北大大会、全国大会で優秀な成績を残す等、勢いの様なものを感じます。生徒と会話をしても、自分の考えを理路整然と説明できる生徒が増えてきたように感じます。SSH指定期間中の、本校の卒業生の中から、多くの世界で活躍する研究者が出てくることを願って、今後も事業推進に努力していきます。



「理数セミナーⅡ」(つくば市 JAXA 筑波宇宙センター)

同期の絆

昭和60年卒 30周年

30年ぶりの笑顔に出会って

92期の卒業30周年記念同窓会が、8月14日、マリカホールにて開催されました。

当日は、恩師と卒業生併せて96名が参加となり、ご逝去された仲間たちに黙とうを捧げた後、清野肇君、今井多紀さんのスムーズな進行で進められました。特に担任の先生には、急な案内にも関わらず、すぐに出席の返事をいただき、当日は、全員がお元気に、最近の様子や今だから言える我々の思い出などを語ってくださいました。

お盆でもあり、仕事や家庭行事などで「残念ながら今回は欠席」との連絡も多く、参加者数は20周年の記念同窓会よりも減りましたが、これまで連絡が取れなかったものの、人伝いに同窓会の開催を知り、30年ぶりに参加してくれた方も何人もおられ、同窓会への熱い思いを感じました。

何かとしがらみが多い世代となりましたが、懐かしいみんなの笑顔、何歳になっても何でも話し合えるひと時、名応援団長大川文幸君のリードで声を張り上げて歌った校歌などなど、何にも代えがたい元気をもらいました。

(永壽祥司)

鶴岡の夏を彩る赤川花火大会と同じ8月15日、湯野浜温泉「華夕美日本海」に於いて開催された、第102回生の卒業20周年記念同期会。

恩師の先生方と同期生合せて107名の参加となりました。

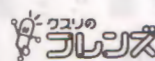
平成7年卒 20周年



須田内科クリニック

院長 **須田 克幸** (昭和50年卒・82回)

〒997-0011 山形県鶴岡市宝田一丁目9-86
TEL 0235(26)7555 FAX 0235(26)7556



処せん調剤・医薬品販売

有限会社 クスリのフレンズ

代表取締役 **小池 正純**
(昭和50年卒・82回)

〒997-0034 山形県鶴岡市本町二丁目6-15 TEL/FAX 0235(25)3845

清野歯科医院

清野 肇
(昭和60年卒・92回)

〒997-0817 山形県鶴岡市睦町6-11
TEL 0235-24-0808 FAX 0235-28-2734

Seino Dental Clinic

鶴岡の天地の恵み

だだちゃ豆の **くろうえもん農場** です



木村 充
(昭和58年卒・90回)

〒997-0855 山形県鶴岡市矢馳甲17
TEL/FAX 0235(22)4824
URL <http://kuruemon.jp>

昭和50年卒 40周年

昭和50年に南高を巣立った私達の卒業40周年記念同期会は平成27年10月11日、担任して頂いた菅原直香先生・渡部真二先生・本間義夫先生の3名の先生をお招きし湯野浜温泉「游水亭いさごや」に於いて開催しました。夜帰りを含めて93名の同級生が集いました。10年毎に同期会を行ってきましたが、組別に泊まっては部活を共にした他の組の同級生と会えないと言われて、では学年全体で泊まろうという事になり合同開催にしました。

最初に全員で記念撮影を行いその後、同期会開会・物故者への黙祷・実行委員長挨拶・3名の先生の近況報告・学生当時の思い出話等の披露がありました。乾杯後祝宴となりましたが同級生同志で昔話に花が咲きボルテージが上り酒を水の様に飲み、事前に予定していた酒代(20万円)はあっという間にオーバー。追加する度に仲居さんから連絡が入り御膳の下で携帯の電卓を操りながら飲む始末。何とかギリギリで一次会を締めてクラス単位の二次会に突入。

カラオケラウンジで歌合戦に興じる2つの組があれば、部屋飲みに徹する組と様々であった。日付が変わっても各階から笑い声が漏れていました。

次日の朝10年後の再会を誓い別れました。
(小池央)



一組坂尾聡先生、二組富樫淑子先生、三組秋野昌弘先生、四組山口昭博先生、五組小松明俊先生、六組佐賀井仁先生の担任していただいた先生6名全員からご出席いただき、当時の思い出と激励のスピーチをいただきました。

高校を卒業してから久しぶりに会う仲間も多く、クラスごとに先生を囲んで、そして部活の仲間と楽しかった高校生活の思い出話と近況を語り合い、笑い合い…。40歳を目前にして、社会では中堅として悩み多い世代になりましたが、まるで希望にあふれていた20年前に戻ったような楽しい時間となりました。最後はもちろん全員で校歌をきっちり三番まで斉唱し、一次会を閉じました。そして二次会、三次会へ。

次の同期会は10年後。今回繋ぎ直した絆を大切に、皆さん元気で、またお会いしましょう。
(若生真人)

《鶴翔同窓会ホームページについて》
本会のホームページは、平成15年7月1日開設以来12年を経過しましたが、一部の変更は行いましたが、ほとんどが従来どおりの企画でした。

本年7月1日から、管理委託を㈱アイディア(代表取締役 北風秀明・平成2年卒・第97回)に変更し、同時に企画のリニューアルを依頼しているところです。まだ、しばらくは時間を必要としますが、内容を徐々に充実していきたいと考えています。どうぞ、ホームページもご覧ください。

日本農産株式会社

代表取締役 丹下 千晴 (昭和50年卒・82回)

〒997-0044 山形県鶴岡市新海町16-13
TEL 0235(23)4420 FAX 0235(23)4421

かけがえない水 穀知と技術でリサイクル

株式会社 東北サイエンス

泉川 智子 (旧姓 榎木) 長澤 庄治 (昭和50年卒・82回)
渡部 文明 (平成7年卒・102回) 富樫 紀子 (平成13年卒・108回)

〒997-0841 山形県鶴岡市白山字西木村56番地1 TEL 0235(25)7510 FAX 0235(25)7513

住宅リフォーム～商業施設リノベーション

株式会社 RELIFE

代表取締役 菅原 衛 (昭60年卒・92回)

〒997-1124 山形県鶴岡市大山1-32-43 Tel.0235-33-1389



農業生産法人

有限会社 ドリームズファーム

専務取締役 東海林 秀宣 (平成7年卒・102回)

〒997-1125 山形県鶴岡市馬町字枇杷川原67番地
TEL 0235(33)4586 FAX 0235(33)0415 <http://www.umakamesi.com/>



佐藤 浩一 先生

①10年 ②英語

③バドミントン10年

④赴任した年から担任が始まり慣れない環境で大変で、当時はがむしゃらだった。男子が多い理系クラスで母校に帰った懐かしさから自分も高校時代に戻ったような気持ちだった。その後1年から3年まで副担任をした学年の生徒達との楽しい思い出も、自分が担任をしたかのように覚えている。最後の3年間に担任した生徒達はちょうど自分の息子達と同年齢で、保護者と一緒に親の視点から成長を見守った。女子が多い文系クラスで、才能豊かでとても優しい生徒達だった。また10年間バドミントンというスポーツに真摯に取り組む生徒達やそれを支える素晴らしい指導者達と出会えたことにも感謝している。

⑤加茂水産高校の元気な生徒達と共に、生命の源、母なる海に親しんでいる。自宅から一番近い高校で、毎朝青い空と海を左手に、夕方は日本海に落ちる琥珀の夕日を右手に見ながらのドライブだ。鶴南では屋外に出て運動することがめったにないライフスタイルだったが、顧問になった陸上部の部活動や、船に乗ったり泳いだりと特色のある学校行事等で日の下に出ることが多くなり、時に体を張ったりすることもあり健康的な毎日だ。仕事の大変さはどこも変わらないが、ここは爽快感のある大変さだなと思いい、毎日楽しんでる。一度しかない人生がますます楽しくなっている。

見ながらのドライブだ。鶴南では屋外に出て運動することがめったにないライフスタイルだったが、顧問になった陸上部の部活動や、船に乗ったり泳いだりと特色のある学校行事等で日の下に出ることが多くなり、時に体を張ったりすることもあり健康的な毎日だ。仕事の大変さはどこも変わらないが、ここは爽快感のある大変さだなと思いい、毎日楽しんでる。一度しかない人生がますます楽しくなっている。

恩師からのたより

今年永年勤続表彰を受けられた先生方から
①在職年数 ②専門教科 ③顧問歴 ④想い出 ⑤近況
⑥同窓生へのメッセージを頂戴しました。

きた。

⑥共に過ごした想い出を胸に、地元、県内はもちろん、日本各地や世界中で活躍してくれたいことを楽しみにしている。



今崎 徹郎 先生

①11年 ②数学

③男子バスケットボール部 (1年) テニス部 (10年)

④鶴岡南高校に勤めたての1年目今はなき特別活動指導課に所属し生徒会に関わりましたが、生徒会執行部の自主性・運営力など鶴南生の能力の高さに驚いたことを今でも思い出します。他校から勤務してきた当時南高生は私の目に随分と大人に映りました。あの時の執行部は現在どうしているのか？

まいます。

⑤二児の父となりました(3歳と1歳ともに女の子) 毎年、温海のさくらマラソン・酒田のシティーマラソンに出場しています。

⑥昨年、担任をした卒業生達とクラス会にて話す機会がありました。思い出話は勿論、各自進んだ方向は違えども同じような悩みや現在夢中になっていることなども話し合いつながり盛りました。

卒業してもなお刺激し合う様子をしながら同級生の大切さを改めて感じました。そんな中、薬剤師を目指す卒業生からは「先生が体調崩したら、医者もいるし看護師もいるし、私が薬を作りますから」と言われ、また建築士を目指すある卒業生からは「先生、家建てる時は言ってくさいよ。私が設計しますから」と言われました。嬉しさがこみ上げると同時に、何となくましくなったものだと思いが熱くなりました。是非、同窓会への参加やクラス会を開催するなど、繋がりを持续けてほしいと思います。また、近況報告も楽しみにしています。



友野 抗 先生

①10年 ②地学

③最初の3年間はアーチェリー部、4年目からソフトテニス部の顧問を仰せつかってます。

④⑤まずはアーチェリー部ですが、生徒達や指導者の方々のおかげで、3年間インターハイに連れて行ってもらい、大変良い経験をさせていただけ

きました。次にソフトテニス部ですが、私自身経験がなく指導するところまでは至りません。しかし、生徒達が自分で創意工夫を凝らしながら練習内容を考え日々実行しており、しかもそれを結果につなげてきております。本当に大した生徒達だと思います。また、当初は使用に堪えない状態だった本校テニスコートを、歴代のソフトテニス部員が継続してコート整備に取り組んだ結果、やっと今年、全ての整備を終えることができました。これも正しく生徒達の力の賜です。生徒会顧問として昨年の体育祭、今年の文化祭の主担当をしました。優秀な執行部と南高祭実行委員会のおかげで成功を収めることができました。科目指導では、本校の地学のセンター試験の目標としては、平均得点率80%オーバーで東北トップを、夢として90%オーバーを目指して取り組んできました。が、未だ80%オーバーしか達成しておりません。精進致します。

⑥これからも本校生徒を温かく見守っていただければ幸いです。

叙勲・表彰 誠におめでとうございます

(敬称略「同窓会だより」第55号以降判明分)

H27.10.1 現在

渡 邊 豊 雄 昭和20年⑤・第53回
石 黒 慶 一 昭和35年・67回
斎 藤 正 光 昭和28年・60回
佐 藤 英 治 第27代校長(H12.4～H15.3)
中 村 博 信 昭和37年・69回
佐 藤 賢 一 昭和61年・93回
本 間 立 一 昭和47年・79回
佐 藤 昭 一 昭和19年・52回
西 脇 怜 奈 平成27年・122回

齊 藤 雄 也 昭和20年⑤・第53回
渡 部 昇 一 昭和24年・56回
上田(宗片)邦義 昭和28年・60回
中 村 昭太郎 昭和20年⑤・在籍
安 野 良 明 昭和46年・78回
加 藤 捷 男 昭和35年・67回
鈴木(五十嵐)ゆき 昭和28年・60回
堀 隆 邦 昭和39年・71回
佐藤(剣持) 茂 昭和52年・84回

平成26年10月
平成26年秋
平成26年秋
平成26年秋
平成26年秋
平成26年11月
平成26年度
平成26年12月
平成26年度

平成27年4月
平成27年度春
平成27年度春
平成27年6月
平成27年度
平成27年度
平成27年度
平成27年度
平成27年度

瑞宝双光章(教育功労)
旭日小綬章(保健衛生功労)
瑞宝小綬章(警察功労)
瑞宝小綬章(教育功労)
旭日双光章(地方自治功労)
第68回毎日出版文化賞特別賞
山形県教育功労者(教育行政功労)
瑞宝小綬章(教育功労)
山形県スポーツ賞・栄光賞
山形県体育協会表彰・殊勲賞
瑞宝小綬章(教育功労)
瑞宝中綬章(教育研究功労)
瑞宝中綬章(教育研究功労)
瑞宝小綬章(教育功労)
鶴岡市市制施行10周年特別表彰(地方自治)
鶴岡市市制施行10周年特別表彰(産業経済)
鶴岡市市制施行10周年特別表彰(社会福祉・市民生活)
鶴岡市市制施行10周年特別表彰(社会福祉・市民生活)
鶴岡市市制施行10周年特別表彰(災害防護)

計 報

謹んで哀悼の意を表します

(敬称略「同窓会だより」第55号以降判明分)

H27.9.30 現在

伴 兼 彌 旧職員昭22年～24年
昭18年・51回
齊 藤 雄 也 旧職員昭27年～58年
平2年～6年
昭20年⑤・53回
中 村 昭太郎 旧職員昭27年～48年
22代校長昭61年～63年
昭20年⑤・在籍者
学校医昭40年～平6年
大 7年・26回
井 上 志 邁 昭7年・40回
本 間 富 夫 昭7年・在籍
菊 池 幸 一 昭10年・43回
三 井 広 弥 昭10年・43回
阿 宗 保治郎 昭11年・44回
青 木 利 雄 昭12年・45回
千 葉 哲 男 昭12年・45回
田 村 精 志 昭13年・46回
折 原 竜 男 昭14年・47回
三 矢 弘 弥 昭14年・47回
田 林 良 治 昭15年・48回
小川(土田)孝次 昭15年・48回
中 武次郎 昭15年・48回
野 澤 嘉 俊 昭15年・48回
鈴 木 慎 次 昭15年・48回
松田(菅原)富次 昭17年・50回
佐 藤 金 一 昭17年・50回
菅 原 藤 夫 昭18年・51回
土 田 茂 昭18年・51回
鈴 木 庄 吾 昭18年・51回
加 藤 良 作 昭19年・52回
安 在 康 弘 昭19年・52回
五十嵐 豊 己 昭19年・52回
吉澤(堀井)四郎 昭19年・52回
玉 津 嘉 雄 昭19年・52回
白 旗 正 貫 昭19年・52回
菅 原 頼 昭19年・52回
4学年修了
佐 藤 巍 昭20年⑤・53回
柏 谷 隆 昭20年⑤・53回
御 橋 義 昭20年④・53回
犬 塚 信

五十嵐 重 治 昭20年・定15回
富 樫 英 夫 昭20年・定15回
石 井 竹 夫 昭20年・定15回
斎 藤 孝 助 昭20年・定15回
三 浦 彦兵衛 昭21年・54回
大 川 雅 男 昭21年・54回
大 滝 稔 昭21年・54回
齋 藤 謙 二 昭21年・定16回
梅 津 梅太郎 昭21年・定16回
佐 藤 五 郎 昭23年・定17回
五十嵐 房 吉 昭24年・56回
長谷川 昭 吉 昭24年・定18回
吉 川 芳 雄 昭25年・57回
門 野 卓 昭25年・57回
吉 田 良 二 昭26年・58回
川 嶋 ふ み 昭26年・58回
日向(五十嵐)和子 昭26年・定21回
伊 藤 健次郎 昭26年・定21回
三 浦 昭 作 昭26年・定21回
上 野 省 三 昭27年・59回
阿 部 一 夫 昭27年・59回
金 野 弘 志 昭27年・59回
大沼(高橋)恵美子 昭27年・59回
池 田 靖 昭27年・59回
谷 家 靖 二 昭27年・59回
五十嵐 直 中 昭27年・59回
鈴木(富田)千香子 昭27年・59回
齋 藤(高橋)信次 昭27年・59回
石 黒 良 孝 昭27年・在籍
佐 藤(五十嵐)幸助 昭27年・定22回
鷺田(加藤)京子 昭28年・60回
齋 藤 諦 三 昭28年・60回
土 岐 恒 二 昭28年・60回
乙 坂 正 志 昭28年・60回
匹田(蓮池)厚子 昭28年・60回
山 田 奎 太 昭28年・60回
佐 藤(山科)ふみ 昭28年・60回
阿 部 良 夫 昭28年・定23回
平 方 金 輔 昭28年・定23回
佐 藤(横山)妙子 昭29年・61回
野尻(難波)恭子 昭29年・61回

高 山 岳 之 昭29年・定25回
関 治 夫 昭29年・定25回
丸 山 明 昭29年・定25回
渡 部 修 吉 昭30年・62回
池 田 惇 二 昭30年・62回
森 康 光 昭30年・62回
本 間 喜美子 昭30年・62回
中 村 保 蔵 昭31年・63回
佐 藤 實 昭31年・63回
五十嵐 憲 治 昭31年・定27回
桧 山 喜 作 昭31年・定27回
伊 藤 彌壽雄 昭32年・64回
高 橋 義 伸 昭33年・定29回
伊 藤 常 雄 昭34年・66回
高 橋 辰 夫 昭34年・定30回
加 藤 加智弥 昭35年・67回
成 沢 邦 夫 昭35年・商9回
湯本忠頭(児生) 昭36年・商10回
渡部(齋藤)良子 昭37年・69回
小 川 圭 一 昭37年・69回
富 樫 一 雄 昭38年・70回
大 瀧 喜 弘 昭40年・72回
萩 原 晋 昭41年・73回
伊 藤 加奈子 昭41年・定37回
石戸谷(青木)彰 昭42年・74回
榎 本 興 助 昭42年・74回
庄 司 茂 昭42年・定38回
半 田 祐 一 昭43年・75回
五十嵐 清 助 昭43年・定39回
小 南 宗一郎 昭44年・76回
本 間 日出輝 昭46年・78回
佐 藤 由紀子 昭47年・79回
土 岐 政 博 昭47年・79回
佐 藤 義 治 昭52年・84回
佐 藤 肇 昭57年・89回
林 悌 一 昭58年・90回
小野寺 隆 昭60年・92回
小 林 俊 介 昭60年・92回
今 野 拓 平2年・通34回
佐 藤 力

母校だより

全日制の課程

平成26年度卒業生
197名

平成27年度教職員の異動

(転出)

阿部 進

(事務部次長・水産試験場)

砂田 智

(数学・鶴岡工業高定時制教頭)

谷藤 温子(美術・県教育センター)

松田 育子(保体・榎岡高)

佐藤 浩一(英語・加茂水産高)

(転入)

渡部 洋

(事務部次長・庄内支庁税務課)

木村 良二(数学・酒田光陵高)

佐藤 義徳(美術・鶴岡工業高)

佐藤 支(保体・小国高)

百瀬美奈子(英語・鶴岡北高)

佐藤 美香(英語・常勤講師)

ロバート・ロジャーズ

(英語・常勤講師)

佐藤 真実(保体・非常勤講師)

通信制の課程

平成26年度の卒業生
41名

(9月:2名、3月:39名)

平成27年度教職員の異動

(転出)

庄司 豊

(教頭・国語・酒田光陵高)

兼子 由香

(家庭・鶴岡南山添校教頭)

佐藤 雄亮(保体・酒田西高)

佃 悠帆(保体・退職)

土岐 恵理

(主任主事・庄内総合支庁税務課)

(転入)

遠藤 淳一

(教頭・英語・山形中央高)



遠藤 淳一
教頭

五十嵐暁子(家庭・鶴岡北高)
富樫 和也(保体・常勤講師)
佐藤 真実(保体・非常勤講師)
丸山あすか
(主任主事・庄内総合支庁建設総務課)

南工定期戦 3年連続 3種目勝利!

野球 7対3
サッカー 6対0
職員サッカー 1対0

【進路状況】



進路指導主事
蛸井 朗

平成26年度進路状況

- ①一橋大、医学部医学科合格
- ②東北大に14人合格
- ③国公立大に131人合格

《センター試験》

生徒197人がセンター試験に出願した。5教科900点型で本校平均点は599.4点。全国平均562.4点を大きく上回り県内高校別で2位の好結果となった。

《合格状況》

難関の一橋大に昨年に続き合格を出した。また、東北大には5クラスになってから最大の14人合格となった。他、東京外語大、北海道大など、難関大に多くの合格者が出た。難関の医学部医学科には、山形大に1人合格した他、過年度生も3人合格し、合わせて4人合格と健闘した。

国公立大学の合格者数は131人で在籍数に対しての合格率が67%となり、合格者数も合格率も5クラスになった。

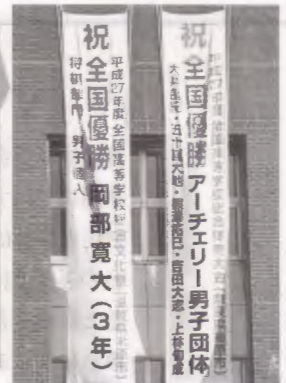
主な大学合格者数(現役のみ・延べ人数)

国公立大学	国公立大学			私立大学	私立大学		
	北海道	道	1	秋田県	立	1	
	北海道	教育	1	山形県	立保健医療	2	
	弘前	前北	2	新潟	県立	11	
	宮城	北育	14	高崎	経	2	
	秋	田	3	首都	学東	1	
	山形	形島	18	そ	の他	18	
	福	島	1	国公立大学計			131
	茨城	城	2	東北	学院	12	
	筑波	波	3	青	山学院	8	
	宇都	宮	7	慶	應義塾	1	
	埼	玉	2	上	智	1	
	千	葉	3	中	央塾	6	
	東京	外国語	2	津	田塾	2	
	東	京学芸	4	東	京理	1	
	一	橋	1	日	本	4	
	お茶の水	女子	1	法	政治	4	
	新	潟	23	明	治	5	
	金	沢	2	立	教	3	
	山	梨	1	早	稲田	1	
	信	州	1	同	志	2	
	広	島	1	立	命	2	
	佐	賀	1	そ	の他	168	
				私立大学計			220

進路状況

卒業生数	197
進学内訳	
国公立大学	110
私立大学	58
短期大学	0
各種学校等	1
進学計	169
就職者数	0
進学準備等	28

大、青山学院などに延べ51人合格と健闘した。



快挙! 全国大会優勝者

今年度も特別活動では全国大会や東北大会に多くの部が駒を進め、顕著な成績を収めています。中でも、全国高校総合体育大会(インターハイ)でのアーチエリー部男子団体、全国高校総合文化祭将棋部門での岡部寛大君とともに全国優勝という快挙を達成しました。

アーチエリー部 男子団体

部長 3年 大井 昌紀

奈良県で開催された全国高校総体アーチエリー競技の男子団体戦で優勝することができました。予選を5位で通過し、1回戦、準々決勝と順調に勝ち進みましたが、予選1位通過の東海高校との準決勝は大接戦となり、同点で延長



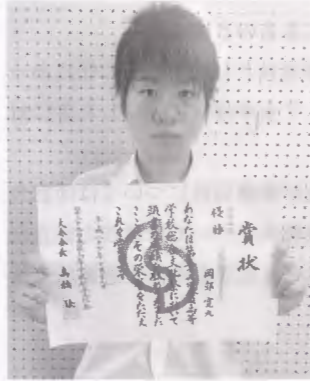
戦に入りました。延長でも同点でしたが、70m先の的の矢の一本が相手より4センチ内側の中し、判定勝ちするという劇的な勝利でした。決勝戦ではそれまでの勢いを保持して勝利することができました。最後まで緊張の連続でしたが、ウソンファコーチや顧問の先生方との2年間の厳しい練習の成果が優勝につながったのだと思います。応援ありがとうございました。

将棋(設置外活動)

3年 岡部 寛大

全国大会で初めて優勝することができました。中学生の

時は三位、昨年は全国高校竜王戦で準優勝と、あと一步のところで全国優勝を逃していたので、高校生最後の年を有終の美で飾ることができました。決勝戦では、予選で唯一負けた相手との対戦となりました。同じ相手に二度も負けたくはありませんでしたし、その相手には別の棋戦でも負けていたので、なんとか勝ちたいと思い、より力が入りました。結果、勝ちを収めることができました。大会の優勝と同時に、対戦相手へのリベンジも果たすことができました。大会出場にあたっては、学校の先生方や友達、家族など多くの人が応援してくださり、感謝の気持ちと同時にプレッシャーもありましたが、それを乗り越えることができました。また、小学生の頃からお世話になっている将棋の先生方にも最高の恩返しができたと思います。



南高祭スケッチ "Go Crazy!" H27.7.25(土)

- 2 理事会は、会則の改正、予算・決算その他重要事項について議決する。
- 3 常任理事会は、理事会に付議の事項その他この会の運営上に必要な事項について審議する。緊急と認めるとき、会長は常任理事会をもって理事会に代えることができる。
- 4 役員会は、会長、副会長及び事務局長・同次長をもって構成し必要に応じて会長が招集のうえ、会務、会計等、本会の運営方針について協議する。なお、会長が必要と認めた場合には、事務局員を出席させることがある。

第5章 会 計

(会 計)

- 第10条 1 この会の会計は、入会金、維持会費及び寄付金等をもってあてる。
- 2 通常会員は、入会と同時に入会金を納入するものとする。但し、入会金の金額は理事会で定める。
- 3 会員は、維持会費として年1回1口（1口1,000円）以上納入するものとする。

(会計年度)

- 第11条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日をもって終わる。

第6章 事務局その他

(事務局)

- 第12条 この会の会務を処理するために事務局を設ける。
- 1 事務局に事務局員若干名と事務補助員若干名を置くことができる。
 - 2 事務局員は会長が委嘱し、事務補助員は会長が任免する。

(簿 冊)

- 第13条 この会に下記の簿冊を備え付ける。
- 1 会員名簿
 - 2 役員名簿
 - 3 会 計 簿
 - 4 会 議 録
 - 5 その他必要な簿冊

附 則

この会則は、平成7年7月1日から施行する。
但し、役員については、平成8年7月1日から適用する。
平成27年6月4日一部改正

鶴翔同窓会表彰及び慶弔規程

「鶴翔同窓会表彰及び慶弔規程」の改正内容について

- 1 現行の「慶弔規定」を定めなかった「表彰規定」と合わせ一つの規程とした。
- 2 「表彰」は、本会役員及び事務局員並びに本校教職員とし、基準については役員会の内規とすることとした。
- 3 「弔慰」は、現行では会員の訃報あるときとなっていたが、これを役員（支部を含む）及び事務局員並びに母校教職員に改正し、弔文等を贈ることとした。
- 4 「慶祝」は、現行のとおりに祝文を贈ることとした。

(目 的)

- 第1条 この規程は、会則第4条第3項に基づき、会員に対する表彰及び慶弔を行うことを目的として定めたものである。

(表 彰)

- 第2条 この会の表彰は次によるものとする。
- 1 この会の役員及び事務局員として永年その任にあった者、また教職員として永年母校に勤務した者に対して表彰する。
 - 2 前項の表彰は、役員及び事務局員については同窓会総会において、また教職員については母校の創立記念式典において、それぞれ記念品を添え感謝状を贈る。

(弔 慰)

- 第3条 この会の弔慰は次によるものとする。
- 1 役員及び事務局員並びに母校教職員死亡のときは、会長名の弔文を贈る。
 - 2 支部の役員死亡のときは前項を準用する。

(慶 祝)

- 第4条 会員に叙勲及び受賞等があるときは、会長名の祝文を贈る。

(特 例)

- 第5条 前各条により難しいときは、会長の判断による。

(改 正)

- 第6条 この規程の改正は理事会において行う。

附 則

平成10年5月15日制定
平成27年6月4日全面改正

鶴翔同窓会会則

「鶴翔同窓会規約」の改正内容について

- 1 第4条第3項
現行の「慶弔規定」を改正し、定めなかった「表彰規定」を合わせて「表彰及び慶弔規程」とし、別に定めることとした。
- 2 第5条第1項、第6条第1項、第7条第1項
現行の「事務局の顧問」を「本会全体の顧問」に改正した。
- 3 第8条第4項、第9条4項
従来から開催されていた「役員会」の会議内容を明確にした。
- 4 第10条第2項・第3項
入会金・維持会費について、「納付」を「納入」に改めた。
- 5 第14条の削除
会則の改正は、第9条第2項においては理事会で、第14条においては総会の議決と重複していたため、理事会の議決とし、第14条は廃止することとした。

第1章 総 則

(目 的)

- 第1条 この会は、山形県立鶴岡南高等学校及びその前身校（以下母校と称する）の卒業者及び修了者並びに関係者をもって組織し、会員相互の連絡・親睦を図り、かつ母校の後援にあたることを目的とする。

(名称・本部)

- 第2条 この会は、鶴翔同窓会といい、本部を鶴岡南高等学校に置く。なお、必要により支部を設置することができる。

(会 員)

- 第3条 この会の会員は、通常会員（母校の卒業者及び修了者）と特別会員（母校の現・旧職員及びこの会の趣旨に賛同する者）の2種とする。

第2章 事 業

(事 業)

- 第4条 この会は、その目的を達成するために次の事業を行う。
- 1 会報並びに会員名簿の刊行頒布
 - 2 母校の教育振興に対する後援
 - 3 会員の表彰及び慶弔（表彰及び慶弔規程は別に定める。）
 - 4 会員相互の連絡・親睦、その他目的達成に必要な事業

第3章 役 員

(役 員)

- 第5条 この会に次の役員を置き、その任期を2年とする。但し再任を妨げない。

- 1 顧 問 若干名
- 2 会 長 1名
- 3 副 会 長 若干名（うち1名は校長）
- 4 理 事 若干名（原則として卒業年次ごと1名とし、うち若干名を常任理事とする。）
- 5 会計監事 若干名
- 6 事務局長 1名

(役員の仕事)

- 第6条 役員の仕事は、次の通りとする。

- 1 顧問は重要事項について、会長の諮問に応じる。
- 2 会長は会務を総理し、この会を代表する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときその職務を代理する。
- 4 理事は会員の連絡にあたり、この会の重要事項を審議する。
- 5 常任理事はこの会の運営に参画するとともに、事業の企画立案にあたる。
- 6 会計監事は会計を監査する。
- 7 事務局長は会務を掌理する。

(役員を選任・委嘱)

- 第7条 役員を選任及び委嘱は、次の通りとする。

- 1 顧問は、理事会の承認を経て会長が委嘱する。
- 2 会長は、会員中から総会において選任する。
- 3 副会長、理事、常任理事、会計監事及び事務局長は、会員中から会長が委嘱する。

第4章 会 議

(会 議)

- 第8条 この会を運営するために次の会議を設ける。

- 1 総 会
- 2 理 事 会
- 3 常任理事会
- 4 役 員 会

(総会等)

- 第9条 この会の会議は次の通りとする。

- 1 総会は毎年母校の創立記念日（7月1日）に開き、会務及び会計、その他重要事項の承認を行う。臨時総会は、必要があるとき開くことができる。

平成 26 年度 鶴翔同窓会 会務報告

月 日 (曜)	名 称	場 所	出 席 者
平成 26 年 4 月 8 日 (火)	鶴岡南高 全日制入学式 (入学生 201 名)	鶴翔会館	会長、副会長、事務局長
4 月 13 日 (日)	鶴岡南高 通信制入学式 (入学生 45 名)	鶴翔会館	副会長 (中條)
4 月 25 日 (金)	平成 25 年度会計監査	鶴翔会館事務室	会計監事、事務局長 他
5 月 13 日 (火)	役員会	グランドエル・サン	
5 月 18 日 (日)	関西鶴翔同窓会 総会	奈良「飛鳥荘」	副会長 (俵谷)、校長
5 月 22 日 (木)	創立 126 周年記念祝賀会第 2 回実行委員会	鶴南高会議室	81・91・101 回生、事務局
6 月 4 日 (水)	理事会	鶴南高会議室	
6 月 14 日 (土)	東京鶴翔同窓会 総会	大手町サンケイホール	会長、校長
6 月 19 日 (木)	羽黒支部 総会	羽黒 (大進坊)	副会長 (俵谷)、校長
6 月 25 日 (水)	創立 126 周年記念祝賀会第 3 回実行委員会	鶴南高会議室	81・91・101 回生、事務局
7 月 1 日 (火)	13:00 ~ 創立記念式典	鶴翔会館	
	14:00 ~ 記念講演佐藤伸一郎氏 (S59 卒 91 回)		
	16:45 ~ 総会 (第 7 代会長 齋藤 正志 就任) 18:00 ~ 創立 126 周年祝賀会		
		グランドエル・サン	
7 月 26 日 (土)	北海道鶴翔同窓会 (鳴鶴会) 総会	札幌ガーデンパレス	副会長 (田中)
7 月 27 日 (日)	通友会 総会	田田「葉の花ホール」	副会長 (中條)、校長・通信教頭
8 月 23 日 (土)	新潟支部 総会	ブライダルステージ「デュオ」	事務局長、校長
8 月 30 日 (土)	仙台鶴翔同窓会 総会	仙台スマイルホテル	副会長 (田中)、校長
9 月 10 日 (水)	山形鶴翔同窓会 総会	山形グランドホテル	副会長 (滝川)、全日教頭
9 月 18 日 (木)	臨時役員会	鶴翔会館事務室	
9 月 26 日 (金)	鶴岡南高 通信制前期卒業式 (卒業生 2 名)		
11 月 1 日 (土)	同窓会だより「第 55 号」発行		
平成 27 年 1 月 27 日 (火)	平成 28 年度発行 (改定)「会員名簿」委託契約 締結		(株)サラト
2 月 11 日 (水)	櫛引支部のつどい	くしびき ゆー Town	会長
2 月 12 日 (木)	創立 127 周年記念祝賀会第 1 回実行委員会	鶴南高会議室	82・92・102 回生、事務局
2 月 15 日 (日)	酒田支部 総会	酒田セントラルホテル	副会長 (滝川)、校長
3 月 1 日 (日)	鶴岡南高 同窓会入会式	鶴翔会館	会長、事務局長 会長、副会長 (國井・黒澤)
	全日制卒業式 (卒業生 197 名)		
3 月 5 日 (木)	臨時役員会	鶴翔会館事務室	
3 月 15 日 (日)	鶴岡南高 通信制卒業式 (卒業生 39 名)	鶴翔会館	副会長 (中條)、校長・通信教頭

平成 27 年度 鶴翔同窓会 役員名簿

○役 員

顧問	石黒 慶一 (昭 35・新)		
会 長	齋藤 正志 (昭 44)		
副 会 長	國井 英夫 (昭 44)	田中 芳昭 (昭 46)	黒澤 久子 (昭 46)
	中條 芳男 (通昭 49)	滝川 義朗 (昭 51)	柴田 曜子 (校長)
会 計 監 事	長坂 紳一 (昭 48)	渡辺 祐二 (昭 50)	菅原 一浩 (昭 60)

○事務局

事務局 長	森 俊直 (昭 43)		
事務局次長	加賀山捷三 (昭 36)	小松 建男 (昭 46・新)	近藤 直志 (昭 46・新)
事務局 員	佐藤 隆 (昭 35)	地主 忠夫 (昭 38)	高樹 陽子 (昭 45)
	北風 秀明 (平 2・新)		
学 校 側	吉川 透 (事務部長・昭 55)	坂尾 聡 (全日教頭・昭 55)	遠藤 淳一 (通信教頭・新)
	土岐 秀昭 (総務課長・昭 48)		
事務補助員	菅原みづえ (昭 53)		

「同窓会だより」への広告掲載

今回の「同窓会だより」(第 56 号)から
広告を掲載しました。

広告の規格は (90 × 30mm) で、広告
料は 15,000 円となっています。

広告掲載を希望される場合は、本会事
務局(鶴岡南高等学校事務室)までお知
らせください。

TEL : (0235)22-0061



小池動物病院

院 長 小 池 央 (昭和50年卒・82回)

〒997-0034 山形県鶴岡市本町三丁目14-27
TEL 0235(24)1013 FAX 0235(22)7500 E-mail:kah1013@sweet.ocn.ne.jp

IMAGINATION & COMMUNICATION

鶴岡印刷株式会社

代表取締役

佐藤 慎一 (昭42年卒・74回)

山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 PHONE.0235-22-3080 FAX.0235-24-8698

平成 26 年度 鶴翔同窓会会計決算

自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 27 年 3 月 31 日
単位:円

1 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
1 会 費	6,150,000	6,680,000	530,000	
①入 会 金	1,150,000	1,190,000	40,000	@5,000 × 238 名 (全日: 197 名、通信: 41 名)
②維 持 会 費	5,000,000	5,490,000	490,000	1,883 件 (平均: 2,915 円)
2 手 数 料	0	0	0	
3 寄 付 金	100,000	2,042,000	1,942,000	304 件 (平均: 6,717 円)
4 繰 入 金	0	0	0	
5 繰 越 金	0	0	0	前年度からの繰越金
6 雑 収 入	1,000	33,633	32,633	預金利子等 (内ガス料金 4~7 月: 29,095 円)
合 計	6,251,000	8,755,633	2,504,633	
寄付金を除く	6,151,000	6,713,633	562,633	

2 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
1 運 営 費	1,550,000	1,532,207	▲ 17,793	
①会 議 費	50,000	33,330	▲ 16,670	事務局・役員会・理事会会議
②需 用 費	70,000	62,850	▲ 7,150	はがき・切手・事務用品等
③事 務 費	650,000	650,000	0	PTA 書記給与負担金
④旅 費	400,000	331,808	▲ 68,192	支部総会出席旅費等
⑤支 払 手 数 料	230,000	211,976	▲ 18,024	維持会費振替手数料
⑥慶 弔 費	50,000	39,324	▲ 10,676	レタックス
⑦雑 費	100,000	202,919	102,919	部活動お祝金・諸雑費 (内ガス料金 4~7 月: 29,095 円)
2 事 業 費	4,610,000	6,349,021	1,739,021	
①同窓会報印刷発行費	2,750,000	2,744,538	▲ 5,462	印刷費・封筒・発送費等
②創立記念事業費	800,000	666,495	▲ 133,505	案内印刷、看板・講演料、実行委員会会議費他
③ホームページ運営事業費	230,000	108,324	▲ 121,676	ホームページ運営費
④支部総会補助費	130,000	155,000	25,000	支部総会祝金 (庄内 5,000 円、他 10,000 円)
⑤在校生活動奨励費	250,000	435,164	185,164	全日 300,000 円、通信 135,164 円 (生活体験発表会生徒派遣費含む)
⑥卒業記念品	200,000	197,500	▲ 2,500	卒業証書ファイル
⑦鶴翔会館持整備費	150,000	0	▲ 150,000	鶴翔会館ホール照明ランプ (交換不要による)
⑧事業積立金	100,000	2,042,000	1,942,000	(事業積立金会計へ)
⑨特別会計繰出金	0	0	0	(特別会計へ)
3 予 備 費	91,000	25,272	▲ 65,728	来客用スリッパ
合 計	6,251,000	7,906,500	1,655,500	
事業積立金を除く	6,151,000	5,864,500	▲ 286,500	

寄付金と事業積立金を除く [収入済額] 6,713,633 円 - [支出済額] 5,864,500 円 = 849,133 円 [次年度に繰越]

平成 26 年度 鶴翔同窓会事業積立金会計決算

自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 27 年 3 月 31 日
単位:円

1 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
1 積 立 金	100,000	2,042,000	1,942,000	同窓会会計からの繰入
2 繰 越 金	3,911,790	3,911,790	0	前年度からの繰越金
3 雑 収 入	210	355	145	預金利子
合 計	4,012,000	5,954,145	1,942,145	

2 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
1 教 育 振 興 事 業 費	0	0	0	
2 特 別 会 計 繰 出 金	100,000	100,000	0	鶴翔会館エアコン特別会計へ
3 同 窓 会 会 計 繰 出 金	0	0	0	
4 予 備 費	3,912,000	0	▲ 3,912,000	
合 計	4,012,000	100,000	▲ 3,912,000	

[収入済額] 5,954,145 円 - [支出済額] 100,000 円 = 5,854,145 円 [次年度に繰越]

平成 26 年度 鶴翔同窓会学校支援活動特別会計決算

自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 27 年 3 月 31 日
単位:円

1 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
1 同 窓 会 会 計 繰 入 金	0	0	0	
2 積 立 金 会 計 繰 入 金	0	0	0	
3 寄 託 金	172,617	419,087	246,470	全日卒業生等から下記の 3 件
4 繰 越 金	184,866	184,866	0	前年度からの繰越金
5 雑 収 入	517	44	▲ 473	預金利子等
合 計	358,000	603,997	245,997	

2 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
1 事 務 費	10,000	0	▲ 10,000	
2 激 励 活 動 費	250,000	162,855	▲ 87,145	新会員受験対策支援 (仙台方面)
3 整 備 活 動 費	0	220,000	220,000	応援団用校旗一式
4 助 成 活 動 費	0	150,000	150,000	インターハイ等生徒派遣費支援
5 予 備 費	98,000	0	▲ 98,000	
合 計	358,000	532,855	174,855	

[収入済額] 603,997 円 - [支出済額] 532,855 円 = 71,142 円 [次年度に繰越]

【寄託金内訳】 ①平成 26 年 3 月卒業生 (121 回) 一同様 : 172,617 円
②旧職員様 : 200,000 円
③平成 7 年 3 月卒業生 (106 回) 同期会様 : 46,470 円

平成 26 年度 鶴翔同窓会鶴翔会館エアコン特別会計決算

自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 27 年 3 月 31 日
単位:円

1 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
1 ガス 使 用 料 金	200,000	87,648	▲ 112,352	PTA 及び第三者からのガス使用料収入
2 積 立 金 会 計 繰 入 金	100,000	100,000	0	室外機メンテナンス、設備修理費の積立
3 繰 越 金	0	0	0	
4 雑 収 入	0	100	100	預金利子等
合 計	300,000	187,748	▲ 112,252	

2 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減	備 考
1 ガス 使 用 料 金	200,000	85,349	▲ 114,651	鶴岡ガス(株)への支払
2 メンテナンス・修理費	0	0	0	
3 繰 出 金	0	0	0	
4 予 備 費	100,000	0	▲ 100,000	室外機メンテナンス、設備修理費の積立
合 計	300,000	85,349	▲ 214,651	

[収入済額] 187,748 円 - [支出済額] 85,349 円 = 102,399 円 [次年度に繰越]

平成 27 年度 鶴翔同窓会一般会計予算

自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日
単位:円

1 収入の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
1 会 費	6,515,000	6,680,000	▲ 165,000	
①入 会 金	1,150,000	1,190,000	▲ 40,000	@5,000 円 × 230 名
②維持 会 費	5,365,000	5,490,000	▲ 125,000	@2,900 円 × 1,850 件
2 広 告 料	150,000	-	150,000	新規 @15,000 円 × 10 件
3 手 数 料	-	0	0	事業積立金会計への移行
4 寄 付 金	-	2,042,000	▲ 2,042,000	事業積立金会計への移行
5 繰 入 金	0	0	0	
6 繰 越 金	849,133	0	849,133	前年度からの繰越金
7 雑 収 入	5,867	33,633	▲ 27,766	預金利子、会員名簿売却代他
合 計	7,520,000	8,755,633	▲ 1,235,633	
前年の寄付金を除く	7,520,000	6,713,633	806,367	

2 支出の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
1 運 営 費	1,680,000	1,532,207	147,793	
①会 議 費	50,000	33,330	16,670	事務局・役員会・理事会会議
②需 用 費	150,000	62,850	87,150	はがき・切手・事務用品・インターネット接続(新規)他
③事 務 費	660,000	650,000	10,000	PTA 書記給与負担金
④旅 費	400,000	331,808	68,192	支部総会出席旅費等
⑤支 払 手 数 料	220,000	211,976	8,024	維持会費振替手数料
⑥慶 弔 費	50,000	39,324	10,676	レタックス
⑦雑 費	150,000	202,919	▲ 52,919	諸雑費
2 事 業 費	5,210,000	6,349,021	▲ 1,139,021	
①同窓会報印刷発行費	2,800,000	2,744,538	55,462	印刷費・封筒・発送費等
②創立記念事業費	700,000	666,495	33,505	案内印刷、看板、講演料、実行委員会会議費他
③ホームページ運営事業費	150,000	108,324	41,676	ホームページ運営費
④支部総会補助費	160,000	155,000	5,000	支部総会祝金(庄内 5,000 円、他 10,000 円)
⑤在校生活動奨励費	500,000	435,164	64,836	全日 300,000 円、通信 100,000 円、部活動祝金 100,000 円
⑥卒業記念品	200,000	197,500	2,500	卒業証書ファイル
⑦鶴翔会館維持整備費	-	0	0	鶴翔会館ホール照明ランプ(LED 新設による)
⑧事業積立金	400,000	2,042,000	▲ 1,642,000	事業積立金会計への繰出金
⑨特別会計繰出金	300,000	0	300,000	学校支援活動特別会計への繰出金
3 予 備 費	630,000	25,272	604,728	
合 計	7,520,000	7,906,500	▲ 386,500	
前年の事業積立金を除く	7,520,000	5,864,500	1,655,500	

平成 27 年度 鶴翔同窓会事業積立金会計予算

自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日
単位:円

1 収入の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
1 一 般 会 計 繰 入 金	400,000	2,042,000	▲ 1,642,000	一般会計からの繰入れ
2 寄 付 金	1,600,000	-	1,600,000	一般会計からの移行 @6,700 × 240 件
3 手 数 料	0	-	0	一般会計からの移行(「会員名簿」発行時の還元金) H28 年度受入れ
4 繰 越 金	5,854,145	3,911,790	1,942,355	前年度からの繰越金
5 雑 収 入	855	355	500	預金利子
合 計	7,855,000	5,954,145	1,900,855	

2 支出の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
1 教 育 振 興 事 業 費	170,000	0	170,000	パソコン、プリンター購入費
2 特 別 会 計 繰 出 金	100,000	100,000	0	鶴翔会館エアコン特別会計へ
3 一 般 会 計 繰 出 金	0	0	0	
4 予 備 費	7,585,000	0	7,585,000	「会員名簿」発行(改定)のための事務費他
合 計	7,855,000	100,000	7,755,000	

平成 27 年度 鶴翔同窓会学校支援活動特別会計予算

自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日
単位:円

1 収入の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
1 一 般 会 計 繰 入 金	0	0	0	
2 積 立 金 会 計 繰 入 金	300,000	0	300,000	
3 寄 託 金	500,000	419,087	80,913	全日卒業生等から
4 繰 越 金	71,142	184,866	▲ 113,724	前年度からの繰越金
5 雑 収 入	858	44	814	預金利子等
合 計	872,000	603,997	268,003	

2 支出の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
1 事 務 費	10,000	0	10,000	
2 激 励 活 動 費	250,000	162,855	87,145	新会員受験対策支援(仙台・東京方面)
3 整 備 活 動 費	150,000	220,000	▲ 70,000	
4 助 成 活 動 費	150,000	150,000	0	
5 予 備 費	312,000	0	312,000	
合 計	872,000	532,855	339,145	

平成 27 年度 鶴翔同窓会鶴翔会館エアコン特別会計予算

自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日
単位:円

1 収入の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
1 ガ ス 使 用 料 金	150,000	87,648	62,352	PTA 及び第三者からのガス使用料収入
2 積 立 金 会 計 繰 入 金	100,000	100,000	0	室外機メンテナンス、設備修理費の積立
3 繰 越 金	102,399	0	102,399	前年度からの繰越金
4 雑 収 入	601	100	501	預金利子等
合 計	353,000	187,748	165,252	

2 支出の部

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
1 ガ ス 使 用 料 金	150,000	85,349	64,651	鶴岡ガス㈱への支払
2 メンテナンス・修理費	0	0	0	
3 繰 出 金	0	0	0	
4 予 備 費	203,000	0	203,000	室外機メンテナンス、設備修理費の積立
合 計	353,000	85,349	267,651	

平成26年4月1日～平成27年3月31日
件数 304件 合計金額 2,042,000円

[illegible][illegible]

早長高鈴庄小工加梗榎梅池	昭和32年辛巳六四回	羽田	坂部	阿部	林林	長土	高佐	佐佐	佐佐	加加	昭和30年辛巳二二回	渡邊	村南	萬平	武鈴	小菊	落達	遠池	池池	昭和29年辛巳一四回	高佐	佐佐	蕭小	伊石	五十	秋野	昭和28年辛巳〇四回	小野	太池	昭和27年辛巳五九回
川南橋木司林藤藤本本津田		田原	部		門	橋橋	橋橋	藤藤	藤藤	藤藤	五十嵐	部田	年野	田田	木藤	池池	地合	井藤	藤内	昭和28年辛巳一四回	橋藤	藤藤	杉藤	川川	五十	秋野	昭和28年辛巳〇四回	小野	太池	昭和27年辛巳五九回
浩君義俊英直秀義捷克惠真			正光		茂亨	正公	清玲	清新	和龍	龍	直成	成博	かね	良富	好利	正			ヨシ	恭和	喜美	晴一		吉正	和哲	昭和28年辛巳〇四回	真哉	良一	昭和27年辛巳五九回	
市子伸一樹生弥彦治弘一桂		景章	三		生江	樹子	徹治	一市	久介	二	哉孝	孝芳	かね	良美	子寛	實正	晴	昭	ヨシ	恭和	喜美	晴一		吉正	和哲	昭和28年辛巳〇四回	真哉	良一	昭和27年辛巳五九回	

[illegible]

佐藤	小黒	工藤	神林	大澤	伊藤	保藤	藤西	西村	齋藤	五十	森松	松浦	平川	中島	高橋	塩野	佐藤	伊藤	荒井	昭和43年	三松	佐々	坂本	齋藤	青木	渡辺	長田	高橋	今野	片岡	昭和41年	原良	昭和40年	佐藤	佐藤
建	秀	忠	英	真	誠	景	秀	秀	秀	秀	俊	孝	秀	和	興	俊	新	高	賢	昭和43年	三松	由一	篤	啓	威	泰	紘	直	憲	勝	俊	善	京	孝	克
進	男子	敏	夫	史	実	光	貴	貴	豊	行	久	志	康	郎	枝	裕	治	和	夫	昭和43年	三松	美	良	夫	誠	純	久	規	石	夫	平	幸	教	實	育
進	男子	敏	夫	史	実	光	貴	貴	豊	行	久	志	康	郎	枝	裕	治	和	夫	昭和43年	三松	美	良	夫	誠	純	久	規	石	夫	平	幸	教	實	育

[illegible][illegible]

中 條	昭 和40年 辛巳	鈴 木	佐 藤	高 橋	長 谷	難 波	難 波	佐 藤	佐 藤	伊 石	石 川
芳 男	善 孝	豊 三郎	豊 三郎	繁 和	智 重	智 重	智 重	忠 也	ヨ 子	正 雄	勝 雄
	昭和44年 辛巳	昭和48年 辛巳	昭和47年 辛巳	昭和47年 辛巳	昭和47年 辛巳	昭和47年 辛巳	昭和47年 辛巳	昭和47年 辛巳	昭和47年 辛巳	昭和40年 辛巳	昭和40年 辛巳

平成26年4月1日～平成27年3月31日
件数1883件 合計金額 5,490,000円

2,000 円を越えて納入いただき、寄附金のお申し出
がなかった方につきましては、2,000 円を維持会費、
残りを寄附金として取り扱わせていただきました。
まことにありがとうございました。

注 卒年・回の次の行に入れた数字は上から卒業者数、現金員数です。

今村	平威十三年卒(二八回)	齋藤	平威十三年卒(二七回)	阿部	富美子	鹿戸	直子	鹿戸	十三年卒(五回)	庄司	由貴	野尻	善之	平成八年卒(三三回)	小林	未奈子	伊藤	晃子	平成五年卒(二〇回)	青柳	直子	平成四年卒(九回)	前田	陽子	平成三年卒(九回)
----	-------------	----	-------------	----	-----	----	----	----	----------	----	----	----	----	------------	----	-----	----	----	------------	----	----	-----------	----	----	-----------

樋口 壯 弥	佐藤 遥 海	平成25年卒(二〇)	山 本 奈 央	平成24年卒(二九)	平本 泰 士	安 野 佐 和子	平成21年卒(二六)	佐藤 大 卓	平成18年卒(二三)	森 祥 子	平成17年卒(二二)	錦 山 智 洋	平成15年卒(二〇)	藤 嶋 麻 衣	平成14年卒(一九)	中 瀬 尚 子
--------	--------	------------	---------	------------	--------	----------	------------	--------	------------	-------	------------	---------	------------	---------	------------	---------

[illegible][illegible]

柴田康也	芝田俊次	佐藤直良	佐藤茂實	齋藤輔實	今間雄雄	加賀輝雄	大野忠彦	大田光雄	石田龍雄	昭和二十三年(五四回)	萬田幸一	萬田伸介	瀧野通	沢河辰巳	寒河江榮	伊藤榮秀	五十嵐秀次	五十嵐夫昭	阿部千昭	昭和二十年(五三回)	和毛千鶴	毛呂太郎	戸村昭夫	中谷昭雄	富樫義雄	高橋賢造	佐藤清治	齊藤雄男	小倉幸男	昭和二十年(五四回)	須崎要三	菅原隆輔	佐藤恒雄	佐藤昭隆	佐藤昭清	桜井昭清	齊藤昭昭	池田昭昭	五十嵐昭昭	五十嵐正弘	安達康弘	渡部一朗	山内慶一	水原俊一	土屋恒二	瀬尾直之助	大瀧直之助
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------------	------	------	-----	------	------	------	-------	-------	------	------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	-------	-------

山森村丸松細中長富常田鈴今小工木門加帶小野伊阿	1昭和25年(一九五〇)	渡渡吉村水三増半成中田榮菊大植五十五十荒秋	1昭和25年(一九五〇)	昭福佐齋大大上伊	1昭和25年(一九五〇)	渡吉堀林	長谷中富高須
演 井谷本井村浜塚水中木野林藤村野藤谷小藤部	1昭和25年(一九五〇)	辺部野井口浦田田沢村村田池滝木十嵐十嵐井野	1昭和25年(一九五〇)	片山藤藤戸川野東	1昭和25年(一九五〇)	會田井	里櫻橋田
敏康康錦孝地和邦陽 利英幸 恒行昭 克貞	1昭和25年(一九五〇)	成昇久正俊恒 一謙充謙卓安美善清長和義義	1昭和25年(一九五〇)	光忠次 兵衛富良	1昭和25年(一九五〇)	俊信勝	久欣 慶
一之人吾敏久夫明一寛尹滋男弥一実卓介夫治孝彦夫	1昭和25年(一九五〇)	就一生治藏祇功郎蔵三士爾行蔵	1昭和25年(一九五〇)	一利衛進亮郎雄次	1昭和25年(一九五〇)	正弘雄孜	一稔一宏

[illegible]

母校創立127周年 7/1(水)

式典及び講演……鶴翔会館
総会及び祝賀会……Gエル・サン



写真撮影協力者

- ・日野 正晴氏 (昭50・82回)
- ・伊藤 薫氏 (昭60・92回)
- ・若生 真人氏 (平7・102回)

編集後記

この1年間は、日本列島が大自然による総攻撃を受けたような凄まじいものがありました。即ち豪雨、暴風、火山噴火といずれも想定をはるかに超えた規模での災害に、同窓生の皆様或いは関係者の方が遭われた例を、私どもは把握しておりませんが如何でしたでしょうか。

さて、繰り返しのお願いで恐縮ではありますが、5年ごと発行の「会員名簿」の改訂が来年に当たります。つきましては、初期調査の実施及び賛助広告の掲載・賛助金の納入・名簿購入に是非ともご協力をお願い申し上げます。

また、今号から「企画編集委員会」を確立し、広告掲載と企画・編集も多く意見を交わしながらの作業により、充実した紙面となりました。但し、当方の執筆依頼時に字数が曖昧になって、多く寄せて頂いたものが収まらず、かなり割愛させていただいた上、写真が小さくなったことなどをお詫び致します。と同時に多方面の方々から快く玉稿をお寄せいただいた事に厚くお礼申し上げます。(委員長 加賀山捷二)